

2018年3月公表「上場企業における不祥事予防のプリンシプル」
(日本取引所グループ)に準拠した求められる不正リスク対応とは

実務に活かせる！ 内部統制の要諦と不正リスクへの対応策

開催要領

日時 2018年 12月14日(金) 13:00~17:00

会場 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)

講師紹介 (株)ヴェリタス・アカウンティング 代表取締役社長 公認会計士 山岡 信一郎 氏

【講師略歴】1994年監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所。国内監査グループに所属。上場企業各社の財務諸表監査をはじめ、株式公開支援業務、デュー・デリジェンス、不正調査、内部統制構築支援業務等に従事。2007年10月 監査法人トーマツ退所後、(株)ヴェリタス・アカウンティング設立、代表取締役社長就任、弁護士の父とともに山岡法律会計事務所設立、パートナーとして就任。現在に至る。企業会計全般、内部統制・内部監査、IFRS等を中心に、各社のコンサルティングをはじめ社内研修、執筆、講演に活躍中。中央大学ビジネススクール講師(歴任)、(財)会計教育研修機構実務補習所講師(歴任) 上場企業の社外監査役、会計顧問、プロネクサス総合研究所ディスクロージャー基本問題研究会委員も務める。

(株)エスプラス 公認会計士・公認不正検査士 辻 さちえ 氏

【講師略歴】1996年監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所。多くの業種の会計監査従事後コンサルティング部門の異動。内部統制、内部監査、リスクマネジメント関連の数多くの業務に従事。2015年独立して(株)エスプラスを設立。内部統制、内部監査、コンプライアンス関連の業務に従事。企業不正関連のセミナーを多数実施。2016年6月より公認不正検査士協会理事。2017年6月より(株)シーボン社外監査役 2017年11月より CFO 協会主任研究委員。

ご参加頂きたい方

会社役員、監査役、内部監査部門・内部統制部門にご所属されている管理職の方々

■受講料:1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400円(本体価格30,000円)
一般	35,640円(本体価格33,000円)

■参加要領

当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛E-mailからもお申込み頂けます。後日、(開催日1週間前~10日前までに)受講票・請求書をお送りします。

*正会員登録の有無など、よくあるご質問(FAQ)は、当会ホームページでご確認いただけます。

([セミナー・会員研究会]→[よくあるご質問])

*お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。

*最少催行人数に満たない場合は、中止とさせて頂く場合もございますので、予めご了承ください。

*申込書をご送信頂く際はくれぐれもFAX番号をお間違えないようご注意ください。

■お申込・お問合せ先

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局

担当/鈴木 E-mail:a-suzuki@bri.or.jp

TEL:03-5215-3513 FAX:03-5215-0951

東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

当会ホームページよりお申込みいただくのが便利です。

企業研究会 セミナー Q 検索

※書面にてお申込みの場合には下記申込書をご記入の上、FAXにてお送りください。

181977-0202		内部統制の要諦と不正リスクへの対応策	
ふりがな 会社名			
住所	〒		
TEL		FAX	
ふりがな ご氏名		所属 役職	
E-mail			
ふりがな ご氏名		所属 役職	
E-mail			

【開催にあたって】

品質データ偽装、燃費偽装などの企業の不祥事が相次いだこともあり、「上場会社における不祥事予防のプリンシプル」が日本取引所グループ(日本取引所自主規制法人)から2018年3月に公表されました。これは不祥事を未然に予防するため、上場会社が自己規律を発揮していただく際の目安として活用するための指針です。このプリンシプルに対応していくためには、「内部統制」や「不正リスク対応」に対する確かな知識が必要となってきます。そこで、今回はこの2つの領域の専門家による解説セミナーを開催致します。

【第1部】13:00 ~ 15:00 実務に活かせる！内部統制の要諦

(株)ヴェリタス・アカウンティング 代表取締役社長 公認会計士 山岡 信一郎 氏

上場会社においてJ-SOXが導入されて早10年以上経過しますが、現状の内部統制は、業務の有効性・効率性やコンプライアンスに活かされているでしょうか。昨今の企業不祥事をみても、内部統制の本質的な理解が、企業において十分に浸透しているとは言えません。そこで第1部では、法制度対応のための内部統制を理解することよりも、内部統制の本質を理解することに重点を置きます。内部統制が実務の中でどのように自分と関係し、直面する管理上の様々な問題に対し、内部統制上どのように対処することが適切なのか、などについて理解が進むように、できる限り身近な事例を用いて解説します。

1. 内部統制とは何か

- ・内部統制とは、Internal Controlである
- ・内部統制の基本的な性格とは
- ・内部統制と不正 ほか

2. COSO フレームワーク

- ・なぜ内部統制という概念が生まれたか
- ・内部統制の目的と構成要素をもう一度確認しておこう
- ・理論を理解し、実務に活かす

3. 法制度における内部統制

- ・会社法における内部統制の概要
- ・金融商品取引法における内部統制の概要

4. 事例で考える内部統制

- ・チェック体制を強化したいが、人もいないしコストもかけられないがどうすべきか
- ・社内ルールがない場合は、どのように対応すべきか
- ・承認印は何を確認して押印されているか
- ・不祥事はすべて内部統制に問題があって発生するのか など

【主著】『『おかしな数字』をパッと見抜く会計術』『判断に迷う仕訳を起こせる会計術』(清文社)他にも「旬刊経理情報」(中央経済社)等専門誌への論文多数。



【第2部】15:00 ~ 17:00 不正リスクへの対応

(株)エスプラス 公認会計士・公認不正検査士 辻 さちえ 氏

不正リスクへの対応を誤ると企業の築き上げた信頼が一気に崩れ、場合によっては企業の存続にかかわるような問題に発展することもあります。不正リスクを「想定外」のリスクとすることなく、冷静にマネジメントしていくことが企業を守ることとなります。不正リスクに対応していくには、不正を予防・発見するための内部統制を整備すると共に、健全な職場となるための様々な取り組みを地道に実践していくで「不正を許さない企業文化」を作り上げていくことが必要となります。第2部では「上場会社における不祥事予防のプリンシプル」を準拠した不正リスク対応に必要な知識や視点をわかりやすく解説をしていきます。

1. 最近の不正事例の特徴

- ・データ偽装の背景
- ・ルールは守れているという思い込みがないか

2. 不正リスク対応の勘所

- ・不正リスクはあると認識すること
- ・不正リスク管理ガイドラインの紹介

3. 不正リスクに関する実態調査の紹介

4. 代表的な手口と予防・早期発見のための内部統制

- ・実態調査から発生頻度の高い不正手口と兆候、内部統制
- ・過去の事例からみられる内部統制の「穴」

5. コンプライアンス・倫理意識の醸成

- ・倫理的な判断をするためには

【主著】『内部監査実務ハンドブック』『不正リスク対応実践ガイド』(中央経済社)その他「経営財務」等雑誌寄稿多数。

